

主日礼拝

2026年7月19日 10時20分～

司式:

奏楽:

「今こそ」

《神の招き》

前 奏 『われらすべて唯一の神を信ず』 J.C. バッハ
招 詞 詩編12編6節
賛 美 歌 431

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 サムエル記上17章38～50節 (旧約440頁)
コリントの信徒への手紙二6章1～10節 (新約325頁)

子ども説教
交読詩編 18編26～35節 (21頁)
賛 美 歌 452
説 教 「今こそ」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 I-192

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌 栄 29
祝 福
報 告
後 奏

『サムエル記上』では、ダビデがゴリアトとの戦いに臨み、主への信頼によって勝利する場面です。ダビデは石投げひもと五つの石だけを手にします。人間的な力や武装ではなく、神が与えてくださる力によって戦うのです。ダビデは「お前は剣や槍や投げ槍で私に向かって来るが、私はお前が挑戦したイスラエルの戦列の神、万軍の主の名によってお前に立ち向かう」と宣言し、この戦いは神御自身の戦いであることを明らかにします。そして石投げひもで放った石がゴリアトの額に当たり、巨人は倒れます。主の救いによる勝利でした。この出来事は、神は世の常識や力関係を超越して御業を行われる方であり、信仰をもって神に従う者を用いて栄光を現されることを示しています。またこの勝利は、弱さの中に神の力が現れるという聖書全体のテーマを先取りし、最終的には十字架によって罪と死に勝利されたイエス・キリストを指し示す出来事なのです。

『コリントの信徒への手紙二』では、パウロは、信徒たちに「神の恵みをいたずらに受けてはなりません」と勧めます。神の恵みと救いは将来の出来事ではなく、「今こそ、恵みの時、今こそ、救いの日」であるため、信徒たちにも今日の応答が求められます。またパウロは自らの使徒職が真実であることを示すため、多くの苦難に耐えながらも、信仰の力によって仕えてきたことを挙げます。「悲しんでいるようでいて、常に喜び、貧しいようでいて、多くの人を富ませ、何も持たないようでいて、すべてのものを所有しています」という逆説を語りつつ、神の恵みと救いに生かされる者は、尽きることのない喜びと豊かさを与えられていることを示して、主イエスが共にいてくださることを証しするのです。

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像: